

## III 調査結果のあらまし

### 第 55 回市政に関する世論調査の結果

#### 1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】は9割強であった。

(2) 好きな理由

宇都宮市の好きだと思うところについては、「自然災害の少なさ」が約5割で最も高く、次いで「買い物など日常生活の便利さ」「自然環境の豊かさ」「慣れ親しんだところ」と続いている。

(3) 嫌いな理由

宇都宮市の嫌いだと思うところについては、「交通マナーの悪さ」が3割半ばで最も高く、次いで「街に活気がないところ」「交通渋滞の多さ」「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」と続いている。

#### 2. 広報媒体の活用状況について

(1) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

市政情報の各広報媒体の視聴状況については、「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見る（聞く）ことがある（計）】は、「広報うつのみや」が8割強で最も高く、次いで「インターネット（宇都宮市ホームページ）」「暮らしの便利帳」と続いている。

(2) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が約6割で最も高く、「手に入れていない」は約2割であった。

(3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

「広報うつのみや」を入手していない理由は、「特に必要でないため」が約5割であった。

(4) 「広報うつのみや」で読んでいる主な記事

「広報うつのみや」で主に読んでいる記事については、「市政情報」が約7割で最も高く、次いで「各施設の催し物」「特集」「情報カレンダー」「政策特集（広報うつのみやプラス）」「LRT」と続いている。

(5) 広報うつのみやに関する感想、取り上げてほしい話題・情報

市政、スポーツ、飲食、文化財等の話題に関する情報を求める声があった。

(6) 市のホームページを見るための主な手段

市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」が約4割であった。

(7) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

ホームページで知りたい情報はどこから探すかについては、「キーワード検索」が5割半ばであった。

(8) ホームページで知りたい情報は探しやすいか

ホームページで知りたい情報は探しやすいかについては、「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい（計）】が7割弱であった。

(9) ホームページに関する感想、充実してほしい機能や情報

医療情報、市民サークル活動、緊急情報の充実や情報検索のしやすさを求める声が多かった。

(10) 市政情報をどんな手段で知りたいか

市政情報をどんな手段で知りたいかについては、「広報うつのみや」が約6割であった。

### 3. 健康づくりについて

(1) 健康面からの生活習慣

健康面からの生活習慣については、「良いと思う」と「まあ良いと思う」を合わせた【良いと思う（計）】が5割強であった。

(2) 相談できるかかりつけの歯科医院

相談できるかかりつけの歯科医院については、「ある」が7割半ばであった。

(3) 主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数

主食・主菜・副菜をそろえて食べる日数については、「ほぼ毎日」が5割半ばであった。

### 4. 「カスタマーハラスメント」の認知度について

(1) 「カスタマーハラスメント」の認知度

「カスタマーハラスメント」の認知度については、「言葉も内容も知っている」と「言葉だけは聞いたことがある」を合わせた【知っている（計）】が約7割であった。

### 5. 福祉活動への参加について

(1) 参加してみたい福祉活動

参加してみたい福祉活動については、「参加してみようと思わない」「ひとり暮らしの高齢者などへの安否確認のための『声かけ』」「ゴミ出しなどの日常生活のちょっとした手伝い」が2割半ば、次いで「子どもの通学時の『見守り活動』」が2割強と続いている。

(2) 地域の福祉活動に参加しやすくするために必要だと思うこと

地域の福祉活動に参加しやすくするために必要だと思うことについては、「活動団体・組織等の情報を得やすくする」が約4割で最も高く、次いで「地域での福祉活動の重要性の周知」が3割強と続いている。

## 6. 生物多様性について

### (1) 自然環境について関心があるか

自然環境について関心があるかについては、「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた【関心がある（計）】が約8割であった。

### (2) 「生物多様性」の認知度

「生物多様性」の認知度については、「言葉も意味も知っている」が4割半ばであった。

### (3) 外来種が及ぼす影響の認知度

外来種が及ぼす影響の認知度については、「知っている」が8割半ばであった。

## 7. 宇都宮市の景観について

### (1) 宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるか

宇都宮市の景観は10年前と比べてどうなったと感じるかについては、「非常に良くなった」と「どちらかといえば良くなった」を合わせた【良くなった（計）】が5割半ばであった。一方、「変わらない」は約3割であった。

### (2) 「宇都宮らしい景観」とは何か

「宇都宮らしい景観」とは何かについては、「都市の中に歴史が感じられる二荒山神社周辺の景観」が4割半ばで最も高く、次いで「大谷奇岩群や大谷公園など大谷周辺地域の景観」が3割弱と続いている。

### (3) 良好な都市景観の形成に必要なこと

良好な都市景観の形成に必要なことについては、「道路上の電柱・電線類の地中化」が約5割で最も高く、次いで「沿道や都心部の緑化の推進」、「周辺景観に調和していない屋外広告物（看板）の撤去や規制」が2割半ばと続いている。

### (4) ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象

ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象については、「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた【良い（計）】が6割強であった。

### (5) ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点

ラッピング広告物（車体側面等に掲出した広告物）の印象を持った点については、「目立つ・目にとまる」が約5割で最も高く、次いで「情報量が多い（少ない）」が2割弱と続いている。

## 8. うつのみや産の農産物について

### (1) 「うつのみや産」の農産物の購入意欲

「うつのみや産」の農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が8割半ばであった。

(2) 宇都宮の農業を大切にしたいと思うか

宇都宮の農業を大切にしたいと思うかについては、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う（計）】が9割強であった。

## 9. まちなかにある既存公園の更なる魅力・利便性の向上について

(1) 「八幡山公園」の利用頻度

八幡山公園の利用頻度については、「まったく利用しない」が約7割で最も高く、次いで「年に数回程度」が約3割と続いている。

(2) 「八幡山公園」の利用目的

八幡山公園へ出かける目的については、「花や緑、自然を楽しむ」が5割半ばで最も高く、次いで「子どもを遊ばせる」が約4割と続いている。

(3) 「八幡山公園」の魅力や利便性の向上に必要な施設

八幡山公園の魅力や利便性の向上に必要な施設については、「カフェやレストラン等の飲食販売施設」が約4割で最も高く、次いで「バーベキュー、キャンプ等を行うアウトドアスペース」が2割半ばと続いている。

(4) 「宇都宮城址公園」の利用頻度

宇都宮城址公園の利用頻度については、「まったく利用しない」が7割強で最も高く、次いで「年に数回程度」が2割半ばと続いている。

(5) 「宇都宮城址公園」の利用目的

宇都宮城址公園へ出かける目的については、「散歩」が4割半ばで最も高く、次いで「集会やイベントへの参加」が4割弱と続いている。

(6) 「宇都宮城址公園」の魅力や利便性の向上に必要な施設

宇都宮城址公園の魅力や利便性の向上に必要な施設については、「カフェやレストラン等の飲食販売施設」が3割半ばで最も高く、次いで「今のままでよい」が2割強と続いている。

## 10. 救急車の利用について

(1) 救急受診アプリケーション「Q助」の認知度

救急受診アプリケーション「Q助」の認知度については、「知らない」が約9割であった。

(2) 「救急電話相談（大人用#7111, 子ども用#8000）」の認知度

救急電話相談（大人用#7111, 子ども用#8000）の認知度については、「知らない」が7割半ばであった。

(3) 救急電話相談の相談時間の認知度

救急電話相談の相談時間の認知度については、「知らない」が9割強であった。

## 1 1. 上下水道事業について

### (1) 上下水道サービスの満足度

上下水道サービスの満足度については、「満足している」と「どちらかという満足している」を合わせた【満足している(計)】が6割半ばであった。一方、「わからない」は2割弱であった。

### (2) 上下水道局の広報紙「私たちの暮らしと水」を読む頻度

上下水道局の広報紙を読む頻度については、「いつも読んでいる」と「たまに読んでいる」を合わせた【読んでいる(計)】が約4割あった。一方「発行していることを知らない」が2割半ばであった。

## 1 2. まちづくり活動への意識について

### (1) まちづくり活動の参加状況

まちづくり活動の参加状況については、「現在、参加している」が2割半ば、「今は参加していないが、今後ぜひ参加したい」と「今は参加していないが、今後機会があれば参加したい」を合わせた【参加したい(計)】が約3割であった。

### (2) 参加中または興味があるまちづくり活動

参加中または興味があるまちづくり活動については、「地域の環境や自然等を守るための活動」が2割半ばで最も高く、次いで「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」が2割強で続いている。

### (3) まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由

まちづくり活動に参加したいと思わない、または参加できない理由については、「参加するチャンス・きっかけがない」が約3割であった。

## 1 3. 資源とごみの分別について

### (1) 「プラスチック製容器包装」の排出時の分別状況

「プラスチック製容器包装」の排出時の分別については、「分別している」が8割強で最も高く、次いで「時々分別している」が約1割と続いている。

### (2) 「プラスチック製容器包装」を分別しない理由

「プラスチック製容器包装」を分別しない理由については、「手間がかかるため」が5割半ばで最も高く、次いで「分別する量が少ない」が約3割と続いている。

### (3) 資源化できる紙の排出時の分別状況

資源化できる紙の排出時の分別状況については、「分別している」が7割半ばで最も高く、次いで「分別していない」が1割半ばと続いている。

### (4) 資源化できる紙を分別しない理由

資源化できる紙を分別しない理由については、「手間がかかるため」と「分別する量が少ない」が約4割で最も高く、次いで「分別収集していることを知らなかった」が2割半ばと続いている。

### (5) ごみと資源物の分別を推進するために必要なこと

ごみと資源物の分別を推進するために必要なことについては、「資源とごみの分け方・出し方の周知の強化」が7割強で最も高く、次いで「分別する必要性や効果などの情報発信」が5割半ばと続いている。

(6) ごみと資源物の分別の周知方法として有効な取組

ごみと資源物の分別の周知方法として有効な取組については、「自治会の回覧板」が約5割で最も高く、次いで「学校・職場での教育」が4割強と続いている。

#### 14. 住宅用火災警報器の設置及び維持管理状況について

(1) 「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況

「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況については、「住宅用火災警報器を設置している」が6割強で最も高く、次いで「どちらも設置していない」が2割強、「自動火災報知設備を設置している」が1割強であった。

(2) 設置している住宅用火災警報器の経過年数

設置している住宅用火災警報器の経過年数については、「10年経過した」が約3割で最も高く、次いで「10年経過していない（設置から未経過）」が約2割、「10年経過していない（交換済みのため）」が2割弱であった。

(3) 住宅用火災警報器等の点検の有無

住宅用火災警報器等の「点検」の有無については、「今まで点検を行ったことがない」が約4割で最も高く、次いで「定期的（半年に一度程度）に点検を行っている（業者による点検も含む）」「点検方法を知らない」が2割強であった。

#### 15. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

(1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度

「大谷石文化」が日本遺産に認定されていることの認知度については、「知らない」が6割弱であった。一方、「知っている」は4割強であった。

(2) 「大谷石文化」を誇りに感じるか

「大谷石文化」を誇りに感じるかについては、「感じる」と「やや感じる」を合わせた【感じる（計）】が7割弱であった。

#### 16. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

(1) 「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度

「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度については、「知っている」が3割半ばで最も高く、次いで「まったく知らない」が3割強であった。

(2) 貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度

雨水貯留・浸透施設の設置に対する補助金制度の認知度については、「知らない」が約7割であった。

(3) 貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度

雨水貯留・浸透施設の設置効果についての認知度については、「知らない」が6割弱であった。

(4) 貯留タンクや浸透ますなどを設置したいと思うか

雨水貯留・浸透施設を設置したいと思うかについては、「わからない」が5割強で最も高く、次いで「設置したい」が2割強、「設置したくない」が2割弱と続いている。

#### (5) 設置希望・既設置の理由

設置希望・既設置の理由については、「雨水を庭木の水やりに利用するため」「水の節約になるため」がいずれも5割半ば、次いで「浸水被害の軽減や適正な水循環の形成につながるため」が5割弱と続いている。

#### (6) 設置したくない理由

設置したくない理由については、「敷地に設置できる場所がないため」「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」が5割半ばで最も高く、次いで「自己負担があるため」が2割半ばと続いている。

## 17. いちご一会とちぎ国体・いちご一会とちぎ大会について

#### (1) 栃木県で国体が開催されることの認知度

栃木県で国体が開催されることの認知度については、「知っている」が約9割であった。

#### (2) 国体開催情報の入手手段

国体開催情報の入手方法については、「広報紙」が5割強で最も高く、次いで「屋外広告物（看板・懸垂幕）」が約4割と続いている。

#### (3) とちぎ国体へのボランティアとしての参加意向

とちぎ国体へボランティアとしての参加意向については、「あまりそう思わない」と「まったく思わない」を合わせた【思わない（計）】が8割弱であった。

#### (4) 国体を盛り上げるために重要だと思うこと

国体を盛り上げるために重要だと思うことについては、「観光情報等を発信する市の魅力紹介」が5割半ばで最も高く、次いで「来訪者に対する心のこもったおもてなしの提供」が5割弱、「会場周辺をきれいにする環境美化活動」が約4割であった。

## 18. 多文化共生の認知度について

#### (1) 多文化共生の認知度

多文化共生の認知度については、「言葉も意味も知っている」が4割弱であった。

#### (2) 外国人と日本人が文化的な違いを認め合える雰囲気の有無

外国人と日本人が文化的な違いを認め合える雰囲気の有無については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う（計）】が約3割であった。一方、「わからない」は2割強であった。

#### (3) 多文化共生の推進にあたり大切なこと

多文化共生の推進にあたり大切なことについては、「外国人住民の日本の生活ルール（ゴミ出し・交通ルールの理解など）」が5割半ばで最も高く、次いで「日本人住民の外国文化の理解（外国の文化や生活習慣を知るための講座など）」が約5割と続いている。

## 19. 結婚・出産・子育てに関する意識について

#### (1) 結婚しているか

結婚しているかについては、「結婚している」が6割半ばで最も高く、次いで「結婚していない」が約2割、「結婚したことがあるが現在はしていない（離死別含む）」が1割強であった。

(2) 結婚するつもりがあるか

結婚するつもりがあるかについては、「いずれ結婚するつもり」が約3割であったのに対し、「結婚するつもりはない」が6割半ばであった。

(3) 結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいか

結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいかについては、「2人」が約6割であった。

(4) 結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいか

結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいかについては、「2人」が4割強であった。

## 20. 「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」について

(1) SDGs についての認知度

SDGs の認知度については、「SDGs について内容をある程度知っており、達成に向けた取組を実践している」が約3割で最も高く、次いで「SDGs について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」が2割半ば、「SDGs についてまったく知らない (今回の調査で初めて認識)」が1割半ばと続いている。

(2) SDGs につながる行動の中で、日頃から取り組んでいるもの

SDGs につながる行動の中で、日頃から取り組んでいるものについては、「買い物をするときはマイバッグを使っている」が7割強で最も高く、次いで「水をだしっぱなしにしないようにしている」「電気を使わないときはこまめに消灯している」がいずれも7割弱と続いている。

(3) SDGs のゴールの中で興味・関心のある分野

SDGs のゴールの中で、興味・関心のある分野については、「すべての人に健康と福祉を」が約5割で最も高く、次いで「住み続けられるまちづくりを」が4割強と続いている。

## 21. 「もったいない運動」について

(1) 「もったいない運動」の認知度

「もったいない運動」の認知度については、「内容を知っており、実践している」が約3割であったのに対し、「知らない」が約5割であった。

(2) 「もったいない運動」を知った経緯

「もったいない運動」を知った経緯については、「もったいない運動市民会議ホームページ、宇都宮市ホームページ」が7割強で最も高く、次いで「もったいない運動の Instagram, Facebook, YouTube」が7割弱と続いている。

(3) 日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」

日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」については、「ごみの減量に向けた行動 (マイバッグ, マイボトル, マイ箸の使用等)」が7割弱で最も高く、次いで「節電・省エネルギー行動 (電気をこまめに消す, 冷暖房の温度設定, 省エネ家電の使用等)」が6割半ばと続いている。



## 2.2. 男女共同参画について

### (1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

家事・育児・介護それぞれに費やした時間については、家事は、「7時間以上21時間未満」が4割半ばであった。育児は、「対象者なし」を除く「7時間以上21時間未満」が、介護は、「対象者なし」を除く「0時間以上7時間未満」が最も高いものの1割弱に満たなかった。

### (2) 社会的な活動の実施状況

社会的な活動の実施状況については、「特になし」が6割強で最も高く、次いで「自治会やまちづくりなどの地域活動」が約2割、「PTA、子ども会などの子どもや青少年の育成」「文化、スポーツなどのグループ活動」が約1割と続いている。

### (3) 配偶者から暴力を受けた経験

配偶者から暴力を受けたことがあるかについて、「心理的攻撃」を除くと「経済的圧迫」「身体的暴行」「性的強要」のいずれも「まったくない」は8割弱であった。「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた【経験あり(計)】は、「心理的攻撃」が最も高く1割弱であった。

### (4) LGBT(エルジービーティー)の認知度

LGBT(エルジービーティー)の認知度については、「言葉も内容も知っている」が7割弱で最も高く、次いで「言葉だけは聞いたことがある」が3割弱、「まったく知らない」が1割弱に満たなかった。

## 2.3. 福祉のまちづくりについて

### (1) 保健福祉サービスに関する情報提供の満足度

保健福祉サービスに関する情報提供の満足度については、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた【満足している(計)】が約6割であった。

### (2) 福祉のまちづくりについての関心

福祉のまちづくりについて関心があるかは、「とても関心がある」と「やや関心がある」を合わせた【関心がある(計)】が約7割であった。

## 2.4. 防犯・交通安全に関する意識・状況について

### (1) 安心して暮らすことができているか

安心して暮らすことができているかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う(計)】が約9割であった。

### (2) 自転車保険の加入状況

自転車保険の加入の有無については、「普段自転車を利用しておらず保険には加入していない」が4割半ばで最も高く、次いで「自動車保険や火災保険の特約(個人賠償保険)など複合型の保険に加入している」が約3割と続いている。

### (3) 自転車乗車用ヘルメットの所持及び着用状況

自転車乗車用ヘルメットの所持及び着用の有無については、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」が7割弱で最も高く、次いで「普段自転車に乗るが保有していない」が2割強と続いている。